問題２Ａ－４　文章を読んで、後の問に答えなさい。

実はそれほど乗り気ではなかった。絵画なんてほとんど知らない。中学時代に美術の授業でいつくか覚えさせられた気はするが、正直その程度の知識しか無いし関心もそれほどあるわけじゃない。だから、あと数時間滞在できるこの地を見て廻るなら普通にもう一つカフェか、小さな水族館って選択肢もあるだろうし、ショッピングモールでの買い物でも良かったのに。

だが、そんな私の当初抱いていた思いは、美術館に入った瞬間、スーッと消えて無くなっていった。

「何なのこれ・・・こんなに細かく筆で木の葉脈まで描いていて、しかも森全体に見ている側に引き込まれるような風景・・・」

光だ。絵画から本当に光が出ているはずはないのに、光が描かれているように見えるせいで、立体感なのか奥行き感のようなものを感じる。絵の横に貼り付けてある解説の、フォンテーヌブローの森もバルビゾン派の説明も、私が一度読んだくらいでは理解できるようなものではなかったが、約二百年も前に描かれたことにもA[ショウゲキ]を受けた。その後も気がついたら絵を一枚一枚、時間をかけてじっくりと見ている自分がいた。絵にも解説の文章にもすっかり惹きつけられてしまった。

考えてみると美術館は私が住んでいる街にだってある。かなり前には行ったことはあるのだが、たしかそれは一般の方の公募展の巡回展で、いわば知人のお付き合いのような感じで行ったので、正直どんな絵があったのか全く覚えていない。

そうか、私は絵画に関心が無かったのではない。単に本物の絵画をじっくりと見たことがこれまでほとんど無かったのだ。見たことがないから、興味が無いとか関心が無いとか思ってしまう。きっと世間の多くの人もそうなのだろう。それを「本物を見たことが無いから知らないです」なんて答える人は世の中きっと多くはない。

・次の段落まで美術館のエピソード

一緒に絵画を見て廻った先輩は実に楽しそうで、時折小声で簡単に説明してくれる。私も、もしかしたらちょっと［　ア　］な感想かもしれないと思いながらも少し言ってみると、先輩は否定せずにうなづいている。美術館というのはこんな風に楽しめるものだということを、人生で初めて知ったのだった。一通り見て廻った後に、館内のショップで先ほどの森の絵画のクリアファイルセットを購入した。

翌日、私は大型書店に語学学習の参考書を見にいった。最近はほとんど毎日進めているので、そろそろ次の巻を買うか、それとも似たような感じの別の参考書にするのか。こういったことはネットよりも実物を見て決めた方がいいので、直接本屋さんに行くようにしている。

・この段落から書店のエピソード

語学参考書のコーナーに行こうと通路を歩いていた時、森の中の川に女性が浮いているような絵画の表紙が目にとまった。昨日見た絵画とはまた違った、幻想的でもあり現実的でもあるかのような、ファンタジーとリアルが同居するような景色。それが何かわからないが、誘われるように本を手に取ってみる。

オフィーリア・・・描かれている女性の名前だ。画家はイギリスのジョン・エヴァレット・ミレイ。一度も聞いたことのない画家だが、この絵についての興味がますます深くなるのを感じ、まずはこの美術コーナーの付近の美術関連の本を、少しずつ見てみることにした。

気がつけばもう書店に来て一時間。結局、最初に見つけたオフィーリアが表紙の本を買って帰った。家についてからは、暖かい紅茶を片手にこの絵画集をめくっている。そこには私の全く知らない世界が広がっているわけだが、昨日あそこへ行かなければ、おそらく書店でこの絵画集が目に入ることが無かっただろう。

その日はとても充実した午後を過ごした気分だったが、語学参考書を買うことをすっかり忘れていたことを寝る前に思い出し、また翌日書店に行くのであった。

（威堰　杏「秀逸なゼクエンツ」より）

問一　A＿＿傍線部のカタカナの漢字と同じ漢字を選択肢から選びなさい。

ア　ショウゲキ

1　関税がどうなるかはコウショウ次第だろう。　交渉
2　彼女の行いはショウサンされた。　賞賛
3　勝つか負けるかここがショウネンバだ。　正念場
4.　◎送る荷物にカンショウザイを入れる。　緩衝材
5　お寺でショウジン料理を食べる。　精進料理

問二　［ア］に入る言葉を、A群・B群の選択肢から、それぞれ一つずつ選びなさい。

A群　1　期待外れ　2◎的外れ　3　栓外れ　4　骨外れ　5　矢外れ

B群　1　顔違い　2　互い違い　3　形違い　4◎見当違い　5　握手違い

・的外れ　と　見当違い　は似たような意味である。

問三　傍線部　あそこ　が指し示す言葉を、本文中より2～5文字で抜き出しなさい。

美術館

問四　この文章で筆者の主張は次の選択肢のうちどれか。

1　初めて本物の絵画の世界を見たことにより、知らなかった世界に触れることができた体験は、これまでの人生がいかに損をしたものであったかを痛感する出来事だった。
・前半はいいが後半の結論は本文に書いていない。

2　初めて絵画をじっくりと鑑賞した体験は、その横の解説に書かれていることが理解できない自分の教養不足を自覚することになり、翌日の書店での行動に繋げることができた。
・前半は本文から逸脱はしていないが、後半は全く違う。

3◎これまでは関心が無いと思っていたことは、実は知らないからであり、知ることによってはじめて興味や関心が広がったり深くなったりするものであると思った。
・本文と合致しているのでこれが答え。筆者の主張が文章の真ん中くらいにあるエッセイである。

4　ある物事に対して関心が無いというようなことを言う人は、実は物事を見たことがない人であり、そうした考え方を変えることが必要となる。
・筆者は　変える必要がある　とまでは言っていない。

5　絵画の世界を知ることはこのところ勉強している語学と似ていて、どちらも知らないことを知るという意味では共通点があり、しっかり勉強して行こうと思う。
・この選択肢は合っているように感じるかもしれないが、筆者は美術と語学の勉強を共通のものとしては書いていない。